公立障害者施設 改革の波

公立の障害者施設を改革しようという動きが、東京都で進んでいる。公立施設は一九六〇年代以降、民間では介助が難しい重度障害者らを受け入れ、先駆的な役割を果たしてきた。だが、民間のサービス水準が高まったこともあり、近年では存在意義が問われている。都内で起きた知的障害者の死亡事故の周辺から、公立施設の問題点と改革の方向を探った。

（安田　武晴）

無念の思い

「安心して預けてきたのに……」

東京都足立区に住む佐藤瀧三郎さん(73)と妻の陽子さん(61)は、一男の進さん（当時三十四歳）の遺影の前で無念さをにじませた。

進さんは、都立の知的障害者施設「七生福祉園」（東京都日野市）で暮らしていたが、昨年一月に入浴中に浴槽内でおぼれ、亡くなった。

佐藤さん夫妻は同年九月、同園を運営する都の監理団体「都社会福祉事業団」などを相手取り、損害賠償請求訴訟を起こした。「職員が見回りさえしてくれれば、助かったかもしれない」との思いからだった。

事故当時は夜勤時間帯で、普段は男女計三人の職員配置だが、この日はたまたま、男性職員が代休を取り、女性三人体制。このため、男性の浴室の見回りができない状況だった。

原告側は、進さんが時々、向精神薬の副作用で動作が緩慢になることがあった点に注目。「浴槽内で同じ副作用が起きた。予測できることで、見回りは当然の注意義務」と主張。一方、園側は「予測不能の強度のてんかん発作」とし、見回りについても「いつも一人で入浴できていたので必要なかった」と過失を否定している。

非常勤が カギ

東京都は二〇〇二年七月、障害者、児童、高齢者の都立施設計三十六か所について、民間移譲を中心とする改革を打ち出した。実績のある社会福祉法人などに任せることで、より質の高いサービスを実現するとともに、運営の効率化で生み出される財源を、在宅福祉サービスの充実に使うためだ。福祉の世界で主流となりつつある「施設から地域へ」という流れにも沿う内容だ。

今回の事故について、都福祉局は「民間施設でも起こりうる。改革とは無関係」との姿勢だ。だが、事故の背景に、都立施設が抱える問題を指摘する声は、都庁内にもある。

融通利かぬ人員配置

民間移譲で質向上へ

知的障害者施設を運営する都内の社会福祉法人「愛成会」は、在宅障害者の生活を支援するため、外出などに付き添う「ガイドヘルプサービス」事業を展開。一部の民間では、職員の高い意識と非常勤職員の活用などが、多角的なサービスを可能にしている

一つは、職員の配置体制の問題だ。民間の施設では、常勤職員を減らし、非常勤職員を多く雇用するよう工夫しているところが多い。食事や入浴など、忙しい時間帯に重点的に人を配置できるからだ。

一方、都立施設は一部を除き、「福祉職」と呼ばれる都の専門職員が介助を行っている。常勤職員の方が質の高いサービスを提供できるという意識が強いこともあり、非常勤職員の増員は難しい。

ある都立施設職員は、「夜勤を、非常勤を含め四人にすれば、見回りができて、事故を防げた可能性は否定できない」と、柔軟性に欠ける職員配置の問題を指摘する。

意識の問題

仕事に対する使命感や責任感の希薄さを指摘する人もいる。民間の障害者デイセンター山びこ（東京都武蔵野市）の安藤真洋施設長は、「入浴と外出で事故やトラブルが起きやすいことは、福祉の現場では常識。民間なら、人手が足りなければ事務職員でも手伝う」と強調する。また、女性だけの夜勤体制になることが分かっていながら、代休を取らせる職場の意識を問題視する声もある。

都の福祉職の場合、給与水準は都庁事務職と同程度で、勤務も原則一日八時間のローテーション制。職員数も国の基準より一・五―三倍も多いので、残業も少なく、代休や有給休暇も取りやすいという。民間では、「毎日朝八時から夜十一時まで働き、休みは月に一日という人もいる」（二十三区内の施設長）との証言もあり、その差は大きい。

「都立施設の職員は、黙っていても好待遇なので、民間のように制度やサービスのあり方などを勉強する姿勢に欠ける。意識の高い人もいるが、大半は、先進的な民間施設では通用しないと思う」と打ち明ける職員もいる。

山口県立大学社会福祉学部の田中耕太郎教授（社会保障論）は、「公務員の組織は、柔軟性や効率性に欠けるので、サービスの直接提供には向かない。都立施設が抱える問題は、公立施設全般に言えることだ」と都の改革を評価する。

安心の設計

ご意見、情報は社会保障部へ

投稿をお寄せ下さい。住所、氏名、年齢、職業、電話番号を明記。〒100・8055読売新聞東京本社「安心の設計」係へ。ＦＡＸは03・3217・1785。Ｅメールはansin@yomiuri.com

「安心の設計」はインターネット(http://www.yomiuri.co.jp/iryou/ansin/index.htm)でもご覧になれます。